



Tomitaro Kurita

栗田富太郎さん ご家族

愛知県出身。66歳で退職し美深町へ移住。ご夫婦で210坪の家庭菜園を楽しみながら、町民以上に積極的に地域のサークル活動に参加している。

● 移住地／美深町（愛知県出身）



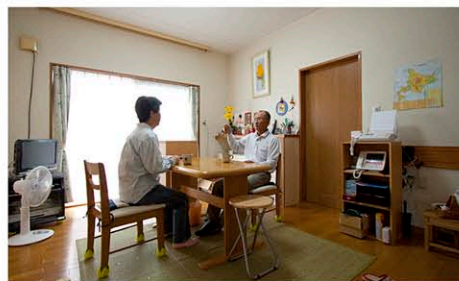
町長が「こんにちは」と声をかけてくれる
美深町はそんなあたたかいまち。

210坪の家庭菜園での野菜作りや積極的な地域サークル活動は美深町の魅力を満喫する、理想的な暮らし。

移住体験ツアーで実感した 美深町民の魅力と野菜のおいしさ

生まれも育ちも愛知県で、全国の小売店に時計を卸す営業の仕事をしていました。会社の都合もあり、定年後も勤務を続けていましたが、60歳を過ぎた頃から退職後移住を考えるようになりました。国内はもちろん海外も視野に入れ、ニュージーランドまで視察旅行に行ったこともあり。63歳の頃、名古屋で開催された移住フェアに足を運んだとき、北海道の美深町と中川町、音威子府村が3泊4日の“北いっしょ移住体験ツアー”の受け入れをしているのを見つけました。個人負担も5万円と格安だったこともあり遊び気分で参加してみましたが、美深町の担当者から熱い歓迎を受けながら町を案内してもらい内にこの町がすっかり気に入りました。その後も数回訪れましたが、町長が私たちを覚えていてくれて挨拶してくれたときには驚きました。当時住んでいた人口38万人の岡崎市では考えられないことで、これも小さな町の魅力なのだと思実感し、ますます美深町への移住に強い気持ちが湧きました。66歳になり、やっと会社から退職が許され、平成22年の7月に念願の移住生活が始まりました。

住まいは新しく部屋数も十分な町営アパートを紹介していただきましたが、外気温がマイナス20度を下回るような厳寒期でも部屋の中は暖かく、快適に暮らしています。こちらで暮らすようになって驚いたことのひとつに野菜のおいしさがあります。アスパラやジャガイモなど甘さの強さや味の濃さは、愛知県では体験したことがありません。これも寒暖の差がある北海道ならではの魅力ですね。



町営アパートが自宅。広さも十分で、冬も暖かく快適な暮らしに満足している。昨年は、駐輪場に置いた自転車のかごの中で、セキレイが子育てをしていたことに驚いた栗田さんご夫婦。



3日に1回足を運ぶ、210坪の家庭菜園

家庭菜園や積極的なサークル活動で 移住地美深町での友だちづくり

夏場は自宅から少し離れたところに210坪の畑を借り、近所の野菜名人から指導を受け、ジャガイモやトウモロコシ、枝豆、スイカなど20種類ほどの作物を育てています。自分で育てた野菜は格別な味がします。

また、せっかく移住してきたのだからと地域サークルなどの活動も積極的に行っています。“詩吟の会”や“歩くスキーの会”をはじめボランティアサークルや陶芸サークルなど10種類ほどのサークルに参加することで友だちも随分増えました。美深町は日本海やオホーツク海へも近く、年に2、3回、仲間と行く海釣りも楽しみの一つで、地域の仲間や自然と仲良く暮らしています。

66歳で退職し「歳を取ったなあ」と思いながら移住してきましたが、農村地帯である美深町は80歳を過ぎてもトラクターに乗って農作業をしている高齢者が多く、70歳を目前にした私に「若い」と声をかけられることも驚きでした。まだまだがんばれる…そんな元気を与えてくれるのも、田舎暮らしの魅力かもしれません。



栗田さんご夫婦(右)と野菜作り師匠の二宮さんご夫婦

【美深町からの一言】将来移住を考えている方や夏場の避暑地、冬場の厳寒期だけ住みたいという、2地帯居住を考えている方、まずはために住んでみてもらって、美深町を知ってください。